

平成 30 年 1 月 26 日

平成 29 年度第 2 回炭酸塩岩分科会・講演会のご案内

寒さが厳しい今日この頃ですが、下記の要領にて講演会を開催いたしますので奮ってご参集ください。

日時：2018 年 2 月 22 日（木） 15：30～17：30

場所：JX 石油開発(株) 3 階 320/321 会議室

(<http://www.nex.jx-group.co.jp/corporate/map.html>)

アクセス：JR 東京駅 丸の内北口より徒歩 10 分、東京メトロ「大手町駅」C10、C13b 出入口より徒歩 2 分

講演①： 安藤寿男氏（茨城大学理学部理学科 教授）

演題：「白亜紀以降の古東北日本弧の復元—常磐地域と五浦海岸の炭酸塩コンクリーションの理解に向けて」

要旨：

北茨城市五浦海岸の中新統高久層群九面（ここづら）層の岩礁に露出する炭酸塩コンクリーションは、メタン冷湧水起源のコンクリーション岩体として日本有数のサイズと 3 次元での構造や分布が直接露頭で観察できる好条件をもつ。これまで、石油技術協会をはじめとする何回かの見学会や幾つかの報告でその実態や特徴を紹介してきた。今回は炭酸塩コンクリーションをもたらした常磐地域の地質学的背景を理解するために、1）白亜紀以降の古東北日本弧の復元、2）古第三紀以降の常磐堆積盆（常磐沖と陸域を含めた広義の総称）の特徴、3）古第三系～新第三系の層序とシーケンスの特徴、4）古第三紀～新第三紀の堆積史で特筆すべき幾つかのトピック、について紹介したい。

講演②： 前山大地氏（JX 石油開発 技術戦略部）

演題：「メタン由来炭酸塩コンクリーションの成因とその石油地質学的意義」

要旨：

近年、世界各地の現世及び地質時代堆積物中からメタンに由来する炭酸塩コンクリーションが多数発見されている。日本でも茨城県五浦海岸の大規模な炭酸塩コンクリーションを初め、白亜紀から現世までの堆積盆地において、メタン由来炭酸塩岩が各地で報告されている。これらのメタン由来炭酸塩岩は地下からメタンに富む流体が上昇してきた際、嫌氣的メタン酸化により重炭酸イオンが供給され、間隙水

のアルカリ度が上昇し、炭酸塩鉱物が堆積物をセメントしていくことで形成される。そのため、メタン由来炭酸塩岩は過去に存在していたガスハイドレートや油ガス田に由来する炭化水素シープから形成された可能性があり、地質時代における堆積盆の石油システムを復元する手掛かりになるかもしれない。本報告では、主に茨城県五浦海岸に露出する炭酸塩コンクリーションについて、地質学・堆積岩岩石学・地球化学的方法を組み合わせ、炭酸塩コンクリーションを形成した炭化水素の起源と形成史及び、常磐堆積盆における石油システムとの関連について報告する。

なお、講演会終了後、JXビル 17 階にて話題提供者を囲み懇親会（会費 4,000 円予定）を開催いたします。

\*会場となる JXビルには事前登録が必要となります。参加希望の方は、お名前・メールアドレス、講演会・懇親会参加の有無を明記の上、2/14（水）までに、安河内 [yasukochi.toru@jxgr.com](mailto:yasukochi.toru@jxgr.com)、八木 [masahiko.yagi@japex.co.jp](mailto:masahiko.yagi@japex.co.jp) までご連絡ください。各社委員の方々には御社毎に参加希望者をとりまとめてご連絡いただくと助かります。

炭酸塩岩分科会座長 八木・安河内